

# その瞬間

千葉県  
浜町剣正会  
小学6年 今井 琥次郎

ぼくは何のために剣道をしているのだろうか？

けいこはツライ  
打たれるとイタイ  
戦うのはコワイ  
自分がクサイ

剣道をやったことがある人はみんな同じように思うはずだ。

七年前、ぼくが幼稚園年中の時、親に連れられて近所の道場へ行った。始めは半そで短パン姿で、ぼくと同じぐらいの身長にかがんでくれる先生の面を打った。はかまをはいて胴たれと小手をつけた時は、強くなった気がした。

およそ半年後、「面をつけていいよ」と先生に言われ、やっと一人前になったみたいでうれしかった。しかしぎ面をつけるとしょうげきのだった。重い、打たれる、苦しい。

剣道が“痛くてきびしいスポーツだ”と知った瞬間だった。

気が進まないままけいこに通う日が続いた。しかし四年生の時、ある錬成大会に出場する五人の一人に選ばれた。ぼくは次鋒。中堅、副将、大将は強い先輩たちだった。

ぼくは「負けると恥ずかしい」という気持ちと「ぼくが勝たなくても先輩たちが勝ってくれるだろう」という思いでひたすら守りの剣道を貫いた。

結果ぼくは時間切れの引き分け。チームは勝って決勝へ進むことが決まった。

ほっとしたのもつかの間、ぼくはかんとくに呼ばれた。いつもはやさしいかんとくにこの時はものすごくしかられた。

「二分間全力で攻めない剣道なんて教えたか」

「後ろにいる三人に頼った剣道でいいのか」

「勝てないと勝手にあきらめるな」

かんとくにこれほどしかられたのは初めてでショックで涙が出た。次の試合までの短い時間で考え続けた。何がいけなかったのか、何ができたのか…。

決勝では気合を入れなおし、がむしゃらに一本を取りに行っただけ。でも二分間必死に戦った結果はまたもや時間切れの引き分けだった。

「またかんとくにしかられる…」

しかし今度は「よくやった、よくがんばった」とほめられた。先輩たちも「ナイスファイト」と言ってくれた。

剣道では“勝ち負けよりももっと大事なことがある”と知った瞬間だった。

それからのぼくの剣道は、以前よりちょっとだけ前向きになった気がする。

そして六年生の夏、市民大会の個人戦に出場した。小学生最後の個人戦だ。先輩たちに「ぼくもあんな剣道がしたい」そう思ってもらえるよう精一杯戦った。

しかし三回戦目、開始早々あっけなく返し胴をくらってしまい、どんどん時間が迫ってきた。そしてあと十秒まで追い詰められた。

そもそも優勝できるなんて思っていない。けれどこんな情けない負け方はしたくなかった。仲間の応援する声が聞こえる中、最後の力をふりしぼった。相手がどれだけ守っていても“必ず勝つ！”それだけを

考えて攻め続けた。

そして残り五秒、いっせいに三本の赤い旗があがった。

勝った！

この一本は今まで取ったどんな一本よりもうれしかった。

剣道において “あきらめない心が本当の強さだ” と知った瞬間だった。

ぼくは剣道が上手くはない。

ぼくは剣道がそれほど好きではない。

それでもこれからも剣道を続けていこう。

剣道を通じて身体を強くするために。

剣道を通じて心を強くするために。

次のその瞬間を手にするまで。